

生徒及び教職員の防災意識の更なる醸成に向けて

北海道足寄高等学校 学級数 6 (校長 渋谷 圭)

□ 実践の概要

一日防災学校を実施し、身近に迫る災害への生徒及び教職員の防災意識を高めるために、足寄町の災害史やハザードマップを理解するとともに、東日本大震災での被災者講話や消防及び自衛隊の支援による災害援助活動の体験学習を行う。

1 実践の目的

「物を備える防災から、共に生き抜くための技術や知識が備わる防災へ」、「救援を待つ受け身から能動的に衣食住を得ていく立場へ」、「地域社会に負荷をかける存在から地域社会に貢献する立場へ」の基本的な考え方の変容や、思考・行動パターン (mindset) を導く。

2 実践内容

(1) 実施計画

- ア 災害派遣活動写真の展示 (陸上自衛隊帯広地方協力本部)
- イ 足寄町ハザードマップの説明と足寄町被災史講話 (足寄町総務課企画財政室)
- ウ 地震及び火災を想定した避難訓練及び垂直式救助袋による避難体験 (足寄町消防本部)
- エ 防災講話 (防災士・学校安全コーディネーター・宮城県石巻市立青葉中学校長 平塚 真一郎 氏)
- オ 災害派遣活動体験 (陸上自衛隊帯広地方協力本部)

(2) 取組の具体

- ア ボランティア部の協力により、生徒ホールに「自衛隊による災害派遣活動」の写真を展示し、一日防災学校実施前から、生徒の防災意識や災害時の被災支援意識の涵養を図った。
- イ 足寄町総務課職員による足寄町ハザードマップの説明と 2016 年の河川氾濫による冠水などの被災史、雌阿寒岳の噴火に備えた防災意識について講話を実施した。
- ウ 地震を想定した避難訓練を実施し、地震及び火災発生時の避難における留意事項について足寄消防本部職員から指導を受けた。また、火災を想定した 3 階からの救助袋による避難体験を実施した。
- エ 「未来をひらく つながる命、つなげる命」と題して、東日本大震災での自らの被災体験や子どもを津波で亡くされたご遺族からの体験講話を拝聴するとともに、災害を想定した「マイ・タイムライン (防災行動計画)」の作成を体験した。
また、講演の様子はオンラインライブ及びオンデマンド配信を行った。
- オ 陸上自衛隊第 5 特科隊の隊員 (約 15 名) が講師となり、全校生徒が 4～5 名の班に分かれ、トリアージ体験を実施した。

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

- ア 地域災害時の避難場所、危険区域について改めて理解した。
- イ 起きたときに「対処する防災意識」から、いつでも起こり得る災害に「備える防災意識」を喚起できた。
- ウ 災害発生時における傷病者応急処置法や、救助・支援に対する優先度について理解した。
- エ 法令で定められた訓練だけではなく、防災意識を持続的に持ち続けるための、生徒への継続的な防災教育が求められる。
- オ 平塚氏の講演は P T A・町内教育関係機関・道内関係高等学校にオンラインライブ及びオンデマンド配信を案内し共有を図った。

(4) 改善後の取組 (来年度以降に向けた計画)

- ア 簡易避難所の作成、水の確保、保温などの実践的な防災学習の実施
- イ 防災に役立つアウトドア体験学習の実施
- ウ 雌阿寒岳噴火時の避難路建設と環境保全学習

3 実践のポイント

探究学習と防災教育は、生徒が自分たちの力で問題を解決する能力と態度を養うという共通の目標がある。特に防災教育については、災害を自分事にすることによって、より主体的かつ内発的に行動する態度や他者を思いやる態度を育成しつつ、よりよい課題解決方法を見つけていくなど、生きる力を育むことが期待できる。



【平塚氏の講演】



【トリアージの体験】